

利 用 報 告 書

課 題 名 (英 文 名)	企業行動の国際比較分析 International Comparative Analysis on the Behavior of Corporations - An Empirical Study -
利用 者 名	道明 義弘 (社会学部 教授)

1. 研究目的・内容

日本および米国、カナダ、世界各国の企業についての財務データベースを利用し、企業行動を分析し、行動比較を試みる。

2. 研究方法・計算方法

日本政策投資銀行「企業財務データバンク」、S&P's COMPUSTAT、S&P's GLOBAL Vantageのデータをパソコンを用いて処理し、SPSS、TSP等の統計処理ソフトを用いて計算処理を行うことによって、企業行動の解明を試みる。

3. 研究成果

本年度は日本企業について、その行動を解明する手がかりとなる下記のような成果を得た。

4. 発表・出版実績または予定

「日本企業の雇用・資本設備とOEM化の役割：経営行動の多変量VARモデルによるパネルデータ分析」道明義弘・伊藤研一・井澤裕司
 ファイナンス研究センター リサーチペーパーシリーズ (立命館大学) 第04-006号、2004年8月
 「日本の製造業企業における雇用、資本設備とOEM化の役割：経営行動の多変量VARモデルによるパネルデータ分析」道明義弘・伊藤研一
 ファイナンス研究センター リサーチペーパーシリーズ (立命館大学) 第04-007号、2004年8月
 「OEM化はこうして利益を生んだ！1980年代のわが国製造業企業：経営行動の多変量VARモデルによるパネルデータ分析」道明義弘・伊藤研一
 ファイナンス研究センター リサーチペーパーシリーズ (立命館大学) 第04-008号、2004年9月
 「設備投資はこうして利益を生んだ!? 1990年代のわが国製造業企業：経営行動の多変量VARモデルによるパネルデータ分析」道明義弘・伊藤研一
 ファイナンス研究センター リサーチペーパーシリーズ (立命館大学) 第04-009号、2004年9月
 「日本の製造業企業における雇用、資本設備とOEM化の役割；あらたな指標を加えて：経営行動の多変量VARモデルによるパネルデータ分析」道明義弘・伊藤研一
 ファイナンス研究センター リサーチペーパーシリーズ (立命館大学) 第04-0010号、2004年9月
 「日本の非製造業企業における雇用、資本設備とOEM化の役割：経営行動の多変量VARモデルによるパネルデータ分析」道明義弘・井澤裕司・伊藤研一
 奈良大学紀要、第33号、2005年3月
 「わが国市場製造業企業における株価と企業業績：パネルデータによる先決性の検定」
 道明義弘・伊藤研一
 奈良大学情報処理センター年報 第15号 2005年3月